

# ☆放課後子ども教室☆

朝晩は気温がぐっと下がり、ストーブに火を入れたというご家庭も多いのではないのでしょうか。日没の時間も少しずつ早くなってきました。季節は確実に動いています。

芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋。秋にはいろいろな楽しみがあります。放課後教室でも季節ごとに味わう楽しみを子どもたちと体験しました。芸術の秋では、音楽やバルーンアートづくりのプログラムを実施。この7月から地域おこし協力隊という制度を利用し、教育交流活動支援員として厚真町にやってきた、小原えりかさんを講師に迎え、ピアノやリコーダーでの合奏や音楽を使ったゲームなどのプログラムを行いました。小原さんは小さい時からピアノを習い始め、音楽大学院を卒業後、ピアノ教室で指導などもしていたそうです。協力隊員として赴任してからは、放課後子ども教室の活動にも関わっていただき、今回、得意技を生かしてプログラムを企画してもらいました。デモンストレーションでは、華麗な指さばきで演奏を披露し「おお～！」という声があがりました。



プログラムを実施する小原さん(右奥)

毎年恒例となったバルーンアートづくりは、風船でお花をつくりました。風船を結ぶのにひと苦労していた子どもたちでしたが、何度か繰り返すうちにできるようになっていきます。これも体験学習のひとつですね。素敵でかわいいお花畑ができました。

スポーツの秋は、ミニバレーにチャレンジです。高学年はサーブの位置を手前にする以外、バレーボールのルールにのっとり行いましたが、低学年はそれではなかなか難しいので、一度キャッチをして味方にパスを出しながら、相手コートに返すというルールにしました。ボールに触れる人が偏らないよう、子どもたち同士でも配慮をしながら遊んでいる様子が印象的でした。このほか、天気の良い日は仲間を集めて外でサッカーをしたり、野球をしたり、体育館でもオニゴッコやバドミントンなどをして、寒さに負けず体を動かしています。



食欲の秋では、今年も秋の味覚・コクワを探しに出かけました。今年も豊作で、たわわに実ったコクワがたくさん見えるのですが、木のとっても高いところにあり、なかなか手が届きません。学校からお借りした脚立と高枝切りバサミを駆使して、なんとか届くところの実をとることができました。放課後教室が始まった頃には、子どもたちでも取りやすいところにあった木の実ですが、ここ1～2年で土地や電線の管理のためか、木が切られてしまったり、実がなくなったりする木が増えたように思います。身近な自然の中に、季節を感じられる体験活動を続けるためには、今後、活動場所周辺のフィールドワーク（資源の調査）にも力を入れなければと強く感じました。

